鴻南中だより

令和4年2月10日発行

〒753-0815　山口市維新公園4丁目7-1
TEL 083(922)2475　FAX 083(922)2529
ホームページ　http://www.yamaguchi-ygc.ed.jp/konan-j/

No. 11
【臨時号】

鴻南中webページ

令和3年度　学校評価アンケート結果

昨年末に全校生徒・保護者・地域（学校運営協議会員）・教職員による学校評価アンケートを実施させていただきました。集計を終え、その結果と考察を掲載しますので、ぜひ今後の鴻南中学校の指針の一つとしてご覧ください。

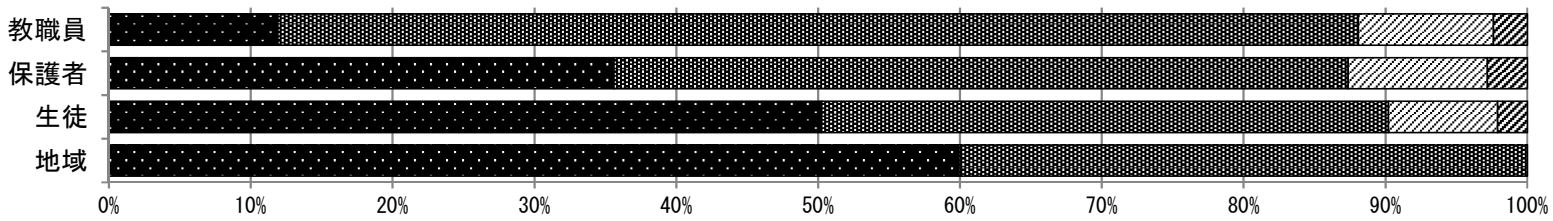
さらに、自由記述に書かれた貴重なご意見もしっかりと反映していくとともに、今後も皆様と協力して鴻南中学校をよりステップアップさせていきたいと考えています。お忙しい中、ご協力いただきましてありがとうございました。

（設問）　よく出来ている　大体出来ている　あまり出来ていない　出来てない

「５つの重点目標」に関する学校評価結果

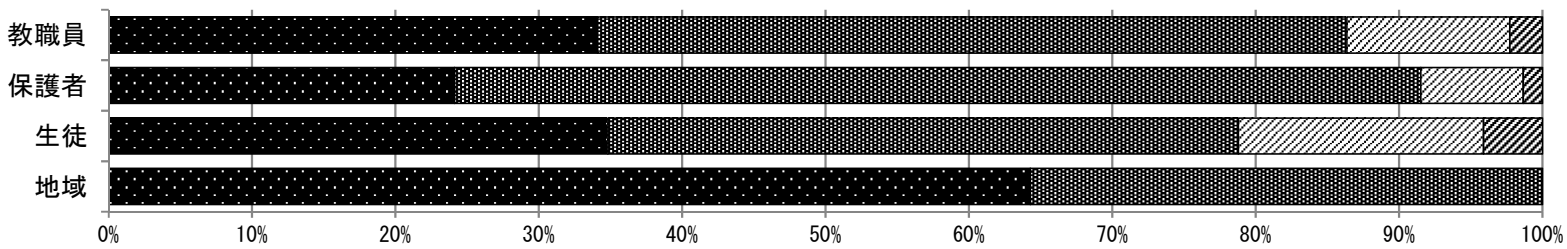
１　学校・学級への意識　　重点目標　○あたたかい学級・学年・学校づくり

１　生徒は「好きです、鴻南」を意識している。



	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来てない	わからない＋空白
教職員	11.5%	71.1%	8.9%	2.2%	6.7%
保護者	34.9%	50.8%	9.6%	2.8%	1.9%
生徒	47.8%	37.8%	7.3%	2.0%	5.3%
地域	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%

２　生徒は、生徒会や委員会活動、学校行事に積極的に取り組んでいる。



	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来てない	わからない＋空白
教職員	33.3%	51.1%	11.1%	2.2%	2.2%
保護者	21.6%	60.4%	6.4%	1.2%	10.4%
生徒	33.6%	42.4%	16.5%	4.0%	3.5%
地域	60.0%	33.3%	0.0%	0.0%	6.7%

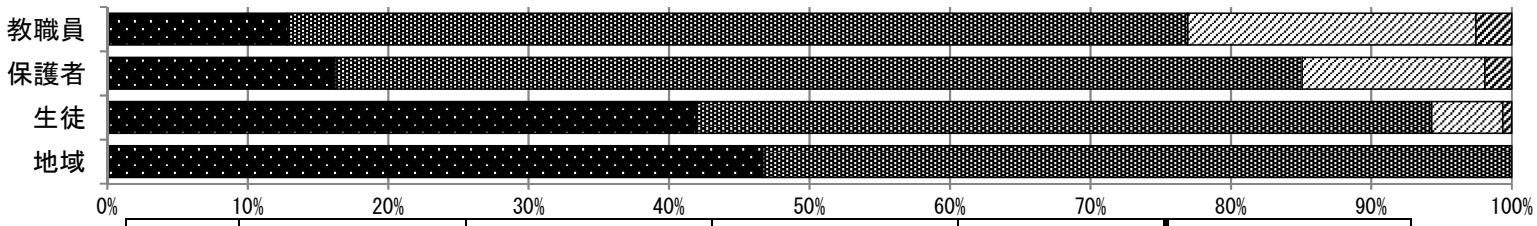
＜考察＞

「好きです！鴻南」の合い言葉がさらに定着し、学校を楽しいと感じている生徒・保護者ともに９割近くを示しており、生徒は楽しく充実した学校生活を送っていると思われる。「よく出来ている」評価に関しては、教職員の思いの４倍以上の生徒が、強く感じているという結果が表れた。

生徒会や委員会活動への積極的な取組方については、昨年に比べ地域の方々の評価が顕著に表れた。学校運営協議会に生徒会執行役員が参加し、直接、触れ合えたことが大きいと考えられる。地域からの「もっとこういう機会があるとよい」という前向きな意見、生徒からの「生徒で学校を創っていきたい」という意見がマッチしており、機を捉えて生徒の達成感や充実感、自己肯定感を育む仕掛けが必要である。

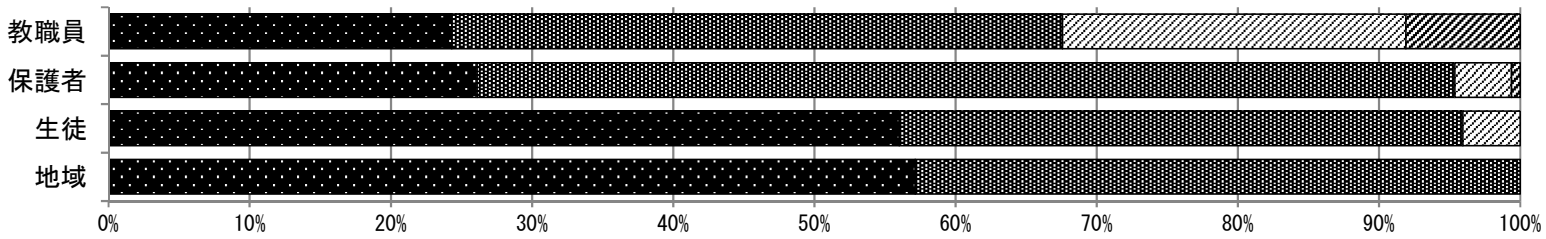
2.　学習指導　　重点目標　○豊かな学力をつける授業づくり

3　生徒は「先生方が熱心に指導してくれて、授業はわかりやすく楽しい」と感じている。



	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来てない	わからない＋空白
教職員	11.6%	58.1%	18.6%	2.3%	9.3%
保護者	13.1%	55.9%	10.6%	1.6%	18.9%
生徒	40.6%	50.7%	4.9%	0.6%	3.2%
地域	46.7%	53.3%	0.0%	0.0%	0.0%

4　生徒は「授業のめあての提示と振り返りを実施し、考えを発表する場や話し合いの場が設定されている。」と感じている。



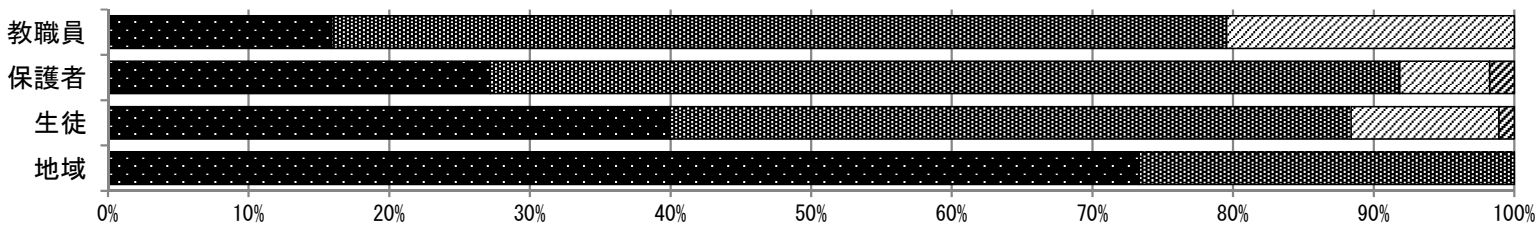
	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来てない	わからない＋空白
教職員	20.5%	36.4%	20.5%	6.8%	15.9%
保護者	21.5%	57.0%	3.3%	0.5%	17.7%
生徒	54.8%	39.1%	4.0%	0.0%	2.1%
地域	53.3%	40.0%	0.0%	0.0%	6.7%

＜考察＞

「授業が分かりやすい」と感じている生徒評価が９０％を上回っている。全国学力学習状況調査でも「教科が好き」と答えた生徒が７割以上であり、正答率も山口県平均を上回っていた。日ごろからのきめ細かな指導の効果はもちろんのこと、ＩCT 環境の整備が確立されるとともに、教職員の積極的な活用が相乗効果となり、生徒の興味関心をひく、わかりやすい授業実践が展開された結果と考えられる。自己存在感を得ること・他者の意見に共感し考えを深めることに重点をおいた、より質の高い授業づくりを推進していきたい。コロナ禍において、人との関わりが希薄な今だからこそ、学校教育で可能な限りのコミュニケーションを図る工夫を仕組む必要がある。

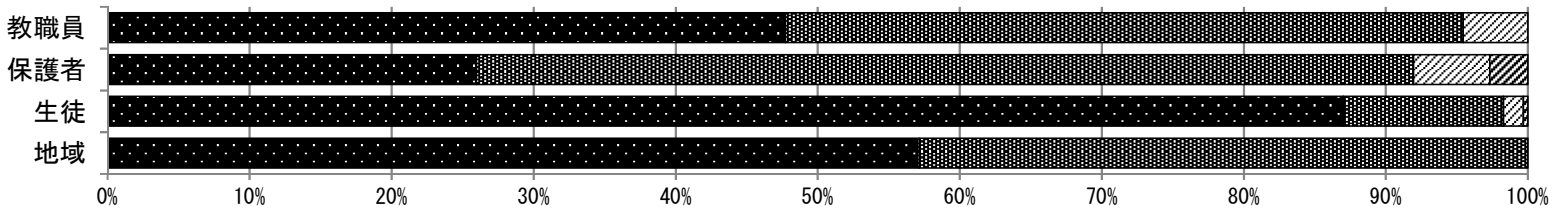
3.　生徒指導　　重点目標　○少事・鮮明・徹底の生徒指導の推進

5　生徒は、生活の3本柱「明るいあいさつ・時間厳守・掃除の充実」を意識して生活している。



	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来てない	わからない＋空白
教職員	15.9%	63.6%	20.5%	0.0%	0.0%
保護者	24.3%	57.7%	5.7%	1.6%	10.7%
生徒	48.9%	47.1%	10.2%	1.1%	2.7%
地域	73.3%	26.7%	0.0%	0.0%	0.0%

6　生徒は、いじめはどんなことがあってもいけないと考えている。



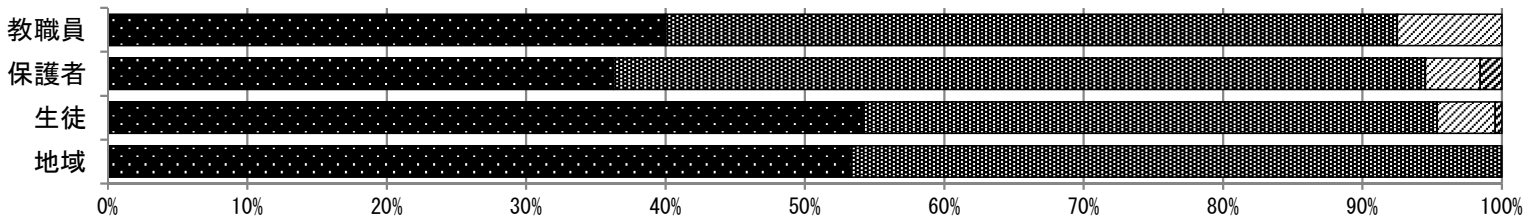
	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来てない	わからない＋空白
教職員	47.7%	47.7%	4.5%	0.0%	0.0%
保護者	21.8%	55.4%	4.5%	2.2%	16.1%
生徒	84.6%	11.0%	1.4%	0.3%	2.7%
地域	53.3%	40.0%	0.0%	0.0%	6.7%

＜考察＞

生活の３本柱に対する生徒アンケートでは、いずれも９０％を超えるプラス評価だが、「よく出来ている」に特化すると、教職員との意識の差が顕著で、成果が十分とは言えない。これは例年変化がなく「自ら声を発するあいさつ」「無言清掃の意義」など、その目的や価値を理解させると共に、教職員の率先垂範を心がける必要がある。さらに、生徒会を中心に、それぞれの柱を意識した自治的な活動を仕組み、質のレベルアップをめざしたい。
いじめ根絶に向けては、「よく出来ている」の評価が生徒（８４％）に対し保護者（２１％）と大きくかけ離れており厳しいものがある。いじめを生まない・許さない学校づくりに向けて、教育相談体制の充実を継続するとともに、正しい道徳感や豊かで鋭い人権感覚を養うための授業づくり、ＳＮＳ関連トラブルの未然防止など、予防的・開発的生徒指導を組織全体で継続していく必要がある。

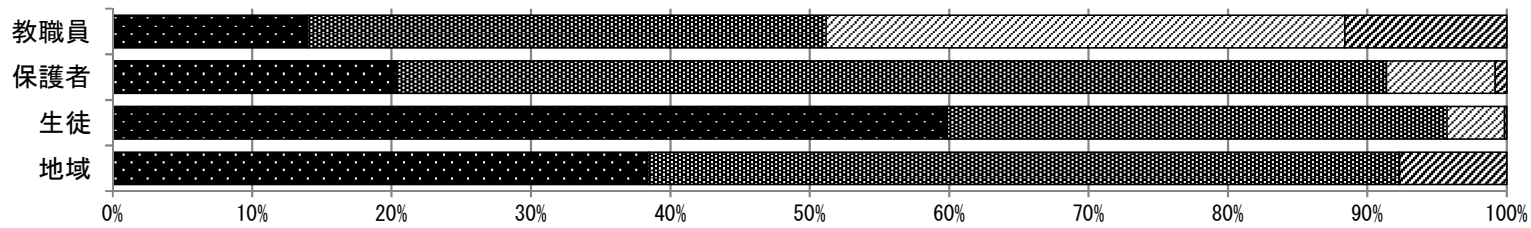
4.　業務改善　　重点目標　○業務改善の推進による誇りと働きがいを感じる職場

7　生徒は、「先生方が明るく活き活きとしておられ、熱心に指導してくれる」と感じている。



	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来てない	わからない＋空白
教職員	37.2%	48.8%	7.0%	0.0%	7.0%
保護者	32.0%	51.4%	3.5%	1.4%	11.8%
生徒	51.9%	39.4%	4.0%	0.5%	4.3%
地域	53.3%	46.7%	0.0%	0.0%	0.0%

8　生徒は、「先生方は行事や部活動など生徒が活動しやすい状況を配慮してくれている」と感じている。



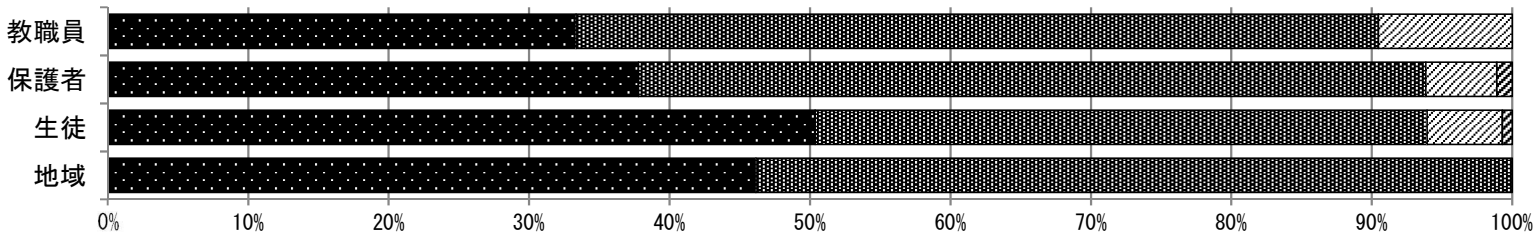
	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来てない	わからない＋空白
教職員	12.2%	32.7%	32.7%	10.2%	12.2%
保護者	12.6%	44.1%	4.8%	0.5%	37.9%
生徒	57.3%	34.3%	4.0%	0.2%	4.3%
地域	33.3%	46.7%	0.0%	6.7%	13.3%

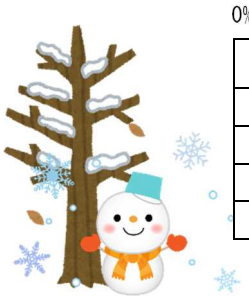
＜考察＞

毎月の時間外業務時間は、昨年に引き続き超過傾向のままであり、時間削減までには至っていない。感染予防のための消毒作業や、換気を促す準備時間が、さらなる早朝勤務につながっていることや、ＳＮＳ関連の問題解決に向けた対応などが状況悪化を招いている一因であろう。今後は今まで以上にＩＣＴ活用による業務の効率化を図ることや、電話応答装置の設置による取り次ぎ停止時間の設定などにより、負担の軽減を図りたい。各分掌の主任を中心にして、組織的な取組で軽重の偏りをできる限りなくすこと、教職員一人ひとりがやりがいを感じながら、意欲的に活動できる協働的な体制づくりを引き続き推進したい。

5.　開かれた学校つくり　　重点目標　○地域とともにある信頼される学校

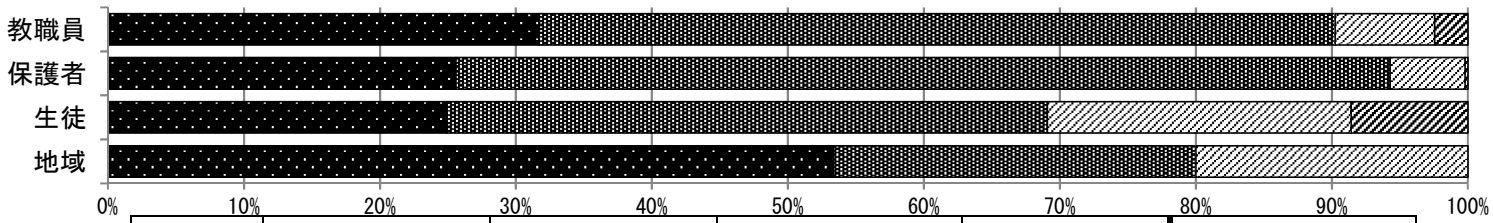
9　生徒は、「学校は、各便りやメールで積極的に情報を発信している」と感じている。





	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来てない	わからない＋空白
教職員	31.8%	54.5%	9.1%	0.0%	4.5%
保護者	36.2%	53.6%	4.8%	1.0%	4.3%
生徒	42.9%	37.1%	4.6%	0.6%	14.8%
地域	40.0%	46.7%	0.0%	0.0%	13.3%

10　生徒は「ボランティア活動に積極的に参加して様々なことを学び、将来は今住んでいる地域の役に立ちたい。」と思っている。



	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来てない	わからない＋空白
教職員	28.9%	53.3%	6.7%	2.2%	8.9%
保護者	20.9%	56.1%	4.5%	0.2%	18.3%
生徒	22.1%	39.2%	19.8%	7.6%	11.3%
地域	53.3%	26.7%	20.0%	0.0%	0.0%

＜考察＞

学校便りや学年・学級便りなどで生徒の様子や学校の取組を周知していることで、保護者・地域の９割のプラス評価を得た。メール配信では、緊急連絡の他にも、集金日の確認や保護者への情報が迅速に家庭に伝わるようにしている。利便性や緊急性を考慮して、クラスや個人への限定的な対応が可能な配信システムに改善すると、さらに有効活用できると考える。
生徒は、あいさつ運動や、少年リーダーズ活動や地域行事におけるボランティアスタッフとしての参加、YKB・OKBを柱とした小中連携、立ち上げ準備中の「ふれあいコンサート」など、地域との絆づくりに意欲をもっており、同時に地域のニーズも大きいものがあるとうかがえる。しかし、本年度も活動が制限され実践に至らなかったことが多く、保護者の「わからない」評価につながってしまったことは残念であった。今後も、コミスク会議「鴻南ネット」を柱に教職員全員への周知徹底を図りながら、小さなつながりを絶やすことなく、活動の輪を大切にしていきたい。

学校評価総括（取組の成果と課題）

- 全体として、評価はおおむね良好な傾向にあると思われる。基本姿勢として、現在の取組施策を継続・徹底しながら、効果や成果をより確実なものにしていく。しかし、記述文の中には教職員への大きな期待と共に、学習指導や生徒指導、部活動に対する指摘もある。課題は真摯に受け止め、改善に努め、今以上に信頼される学校づくりを推進していきたい。
- 学習指導に関する生徒の評価は高いが、昨年来のコロナ禍で、感染状況が悪化する度に、学力保障問題に対する不安はぬぐえない。学習指導要領の改訂と同時に、一人一台タブレットの導入も拍車をかけ、保護者の関心や期待がさらに高まってきた。ウィズコロナを視野に入れた「新しい学習様式」について、引き続きスキルアップに努める必要がある。
- 「学校生活の３本柱（あいさつ・時間厳守・掃除）」に関する生徒・保護者の評価は高い傾向にあるが、教職員の評価は十分満足にまでは至っていない。ここ数年同様の評価であり、危機管理の視点からも、「求める生徒像」の共通理解を図りながら、現状と課題を正しく把握し、足並みをそろえた取組を組織全体で継続する必要がある。
- 今後の鴻南地区コミュニティ・スクールのいっそうの推進に向けて、地域と子どもたちの結びつきを強くするために、生徒総会で提案のあった人材バンク設立を実現させ、ボランティア活動の充実を図り、地域・家庭・学校が一体となって取組を推進していきたい。コロナ禍を理由に制限された各種地域行事や活動への関わりを、アフターコロナにもつなげられるよう大切にしていきたい。その柱である小中連携の取組がさらに充実するよう、相互理解に努める必要がある。
- 教職員の「活き活きと働きがいのある職場」をめざしている。コロナ禍に影響を受ける中で見えてきた本当に必要不可欠な行事や校務分掌を精査し、見直すチャンスと捉えたい。業務のスリム化を図り、教職員の負担軽減のための仕組みを確立させるため、「ノー残業デーの設定」や、「一人月一度の年休消化」などに加えて、「電話応答や対応停止時間の設定」など、新しい手立てをぜひ実現させたい。
- 個々の教師に関する課題（記述文）については、教育公務員としての責任を自覚し、たった一人の教職員の言動が組織全体に与える影響を理解し、一般論で対処することなく、迅速かつ丁寧な個別対応を心がける。謙虚な姿勢を忘れることなく、日々研鑽を積む意識の高い集団でありたい。保護者の学校教育全般に対する満足度は８０％を超えており良好であるが、さらなる信頼の構築のために、少事・鮮明・徹底を心がけ、何事にも真摯に対応していきたい。

お忙しい中、ご覧いただきありがとうございました。今後も、ご家庭や地域の皆様とさらに手を携えて、『生徒一人ひとりが、笑顔で生き生きと活動し、誇りがもてる学校』をめざしていきたいと考えています。今後もどうぞよろしくお願いいたします。